

DX推進状況調査結果【2025年度速報版】

MRI 三菱総合研究所

2025年4月

デジタルイノベーション部門統括室

調査概要

目的	日本企業のデジタル化の取組状況把握
時期	2025年1月
方式	Webアンケート調査
回答者	① 売上高100億円以上の企業に勤務(派遣・契約社員除く) ② 自社内のDXの取組に関与している従業員1,000名 ③ 右表2の業種に該当

表1 | 勤務先企業の直近1年間売上

	回答数	%
100億円以上500億円未満	275	27.5
500億円以上1000億円未満	160	16.0
1000億円以上5000億円未満	222	22.2
5000億円以上1兆円未満	114	11.4
1兆円以上	229	22.9
合計	1,000	100.0

表2 | 勤務先企業の業種

	回答数	%
建設業	90	9.0
製造業	200	20.0
電気、ガス、熱供給、水道業	100	10.0
情報通信業	150	15.0
運輸、郵便業	120	12.0
卸売業、小売業	150	15.0
金融、保険業	150	15.0
不動産、物品賃貸業	40	4.0
合計	1,000	100.0

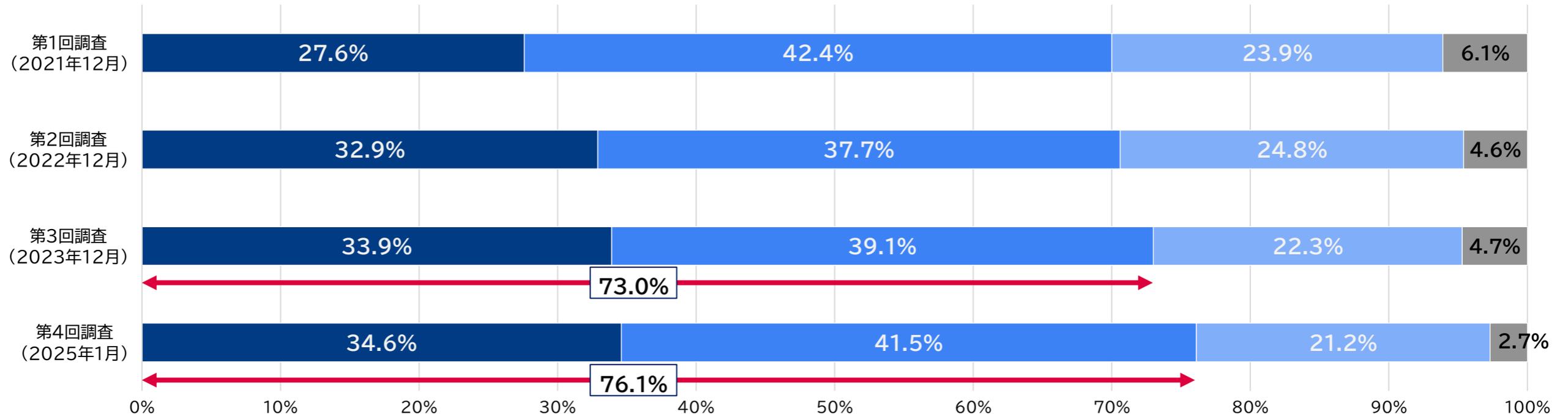
表3 | 回答者の役職

	回答数	%
役員クラス	76	7.6
部長クラス	316	31.6
課長・次長クラス	324	32.4
係長・主任クラス	166	16.6
一般社員	118	11.8
合計	1,000	100.0

① デジタル化進展度

- デジタイゼーション(業務改善)以降の割合が+3.1%増加(73.0%→76.1%)。
- 一方、ビジネス変革段階は+0.7%で同水準(33.9%→34.6%)。第1回調査から第2回調査で+5.3%増加(27.6%→32.9%)した後、伸びが鈍化傾向。

(設問)貴社におけるデジタル化の進展度について、あてはまる段階をお答えください。(単数回答)

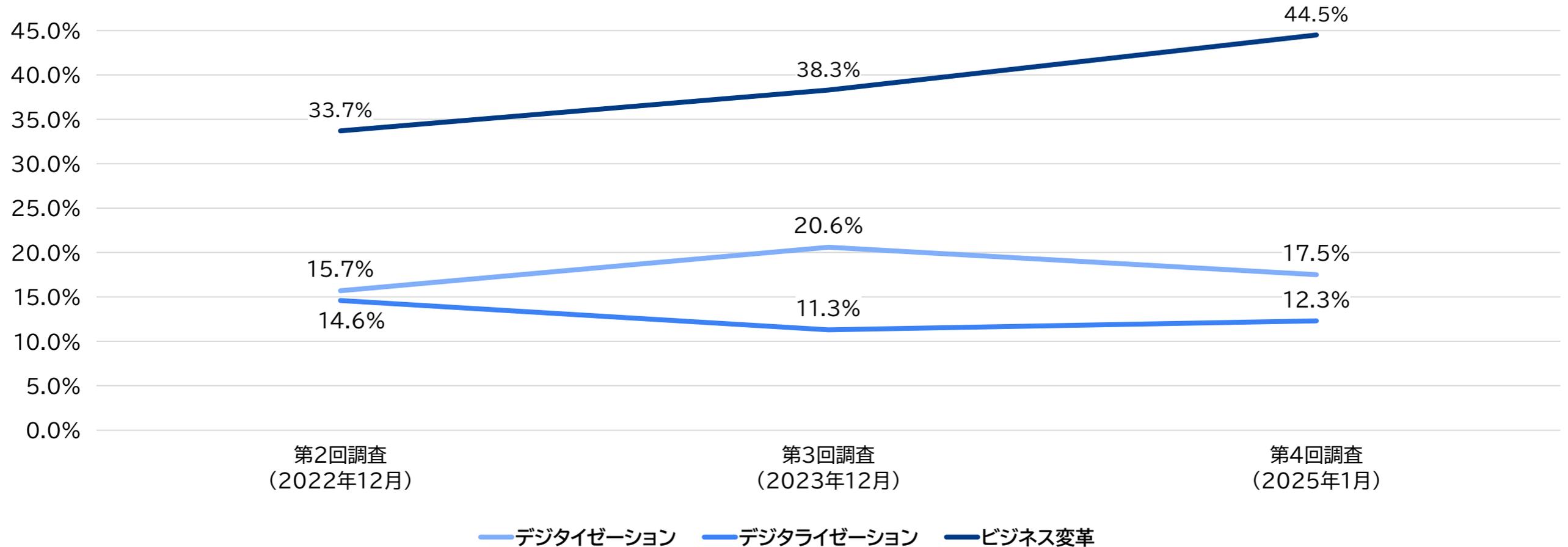


- ビジネス変革: 組織全体の業務・製造プロセスのデジタル化、顧客起点の価値創出のためのビジネスモデル変革をしている段階
- デジタル化: 個別の業務・製造プロセスをデジタル化している段階
- デジタイゼーション: アナログ・物理データをデジタルデータ化している段階
- 取組なし

②DXの成果

- ビジネス変革段階に至る企業(以下、ビジネス変革企業)では「想定通りの成果が出ている」割合が右肩上がりになっているのに対し、デジタルイゼーション段階やデジタイゼーション段階の企業(以下、デジタルイゼーション企業、デジタイゼーション企業)では同水準内で推移。**ビジネス変革に取り組み想定通りの成果を出す企業と、デジタルイゼーションまでに留まり、想定した成果が出ない企業に二極化している状況がうかがえる。**

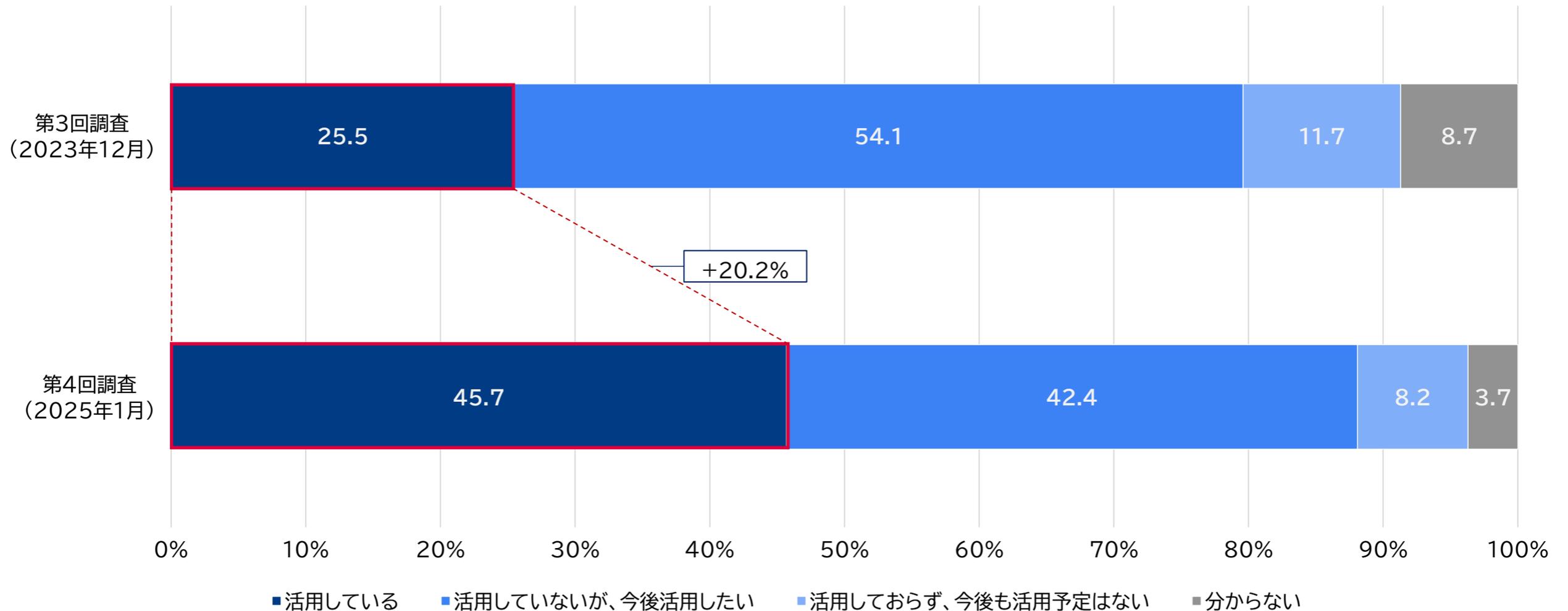
「(設問)貴社におけるDXの取組全般の進展度についてお答えください」で「想定通りの成果が出ている」と回答した割合



③生成AI利用状況

- 業務での利用率が**+20.2%大幅増加(25.5%→45.7%)**。

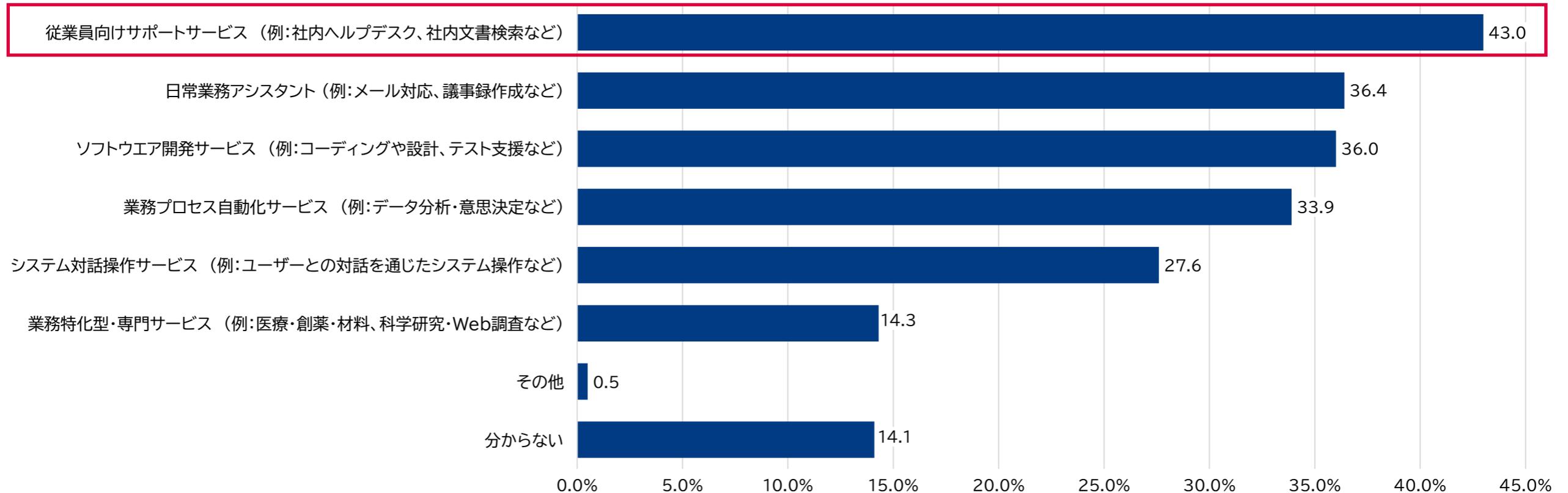
(設問)生成AI関連サービス(ChatGPT等)に関して、あなたの利用状況を教えてください(仕事)。(単数回答)



④ AIエージェントへの期待

- 「従業員向けサポートサービス」が先行。RAG等、現行の生成AI活用の延長として検討している可能性がうかがえる。
- 一方で「日常業務アシスタント」、「ソフトウェア開発サービス」、「業務プロセス自動化サービス」がほぼ同水準で次点。主軸業務のプロセス自動化に必要な観点でも検討されている傾向がうかがえる。

(設問) 貴社が今後自社に導入したいAIエージェントサービス(導入中含む)を教えてください。(複数回答)



⑤DXの取組の焦点の変化

- デジタイゼーション企業では、変化前後ともに業務改善が最上位。
- ビジネス変革企業の焦点がビジョン策定・実行から業務改善に変化。
- **ビジネス変革企業では、中長期的ビジョンが浸透した上で、変革の本質である業務改善に取り組んでいると解釈できる。**

(設問)DXの取組の焦点について、直近5年間で変化はありましたか。<変化前/変化後>(複数回答)

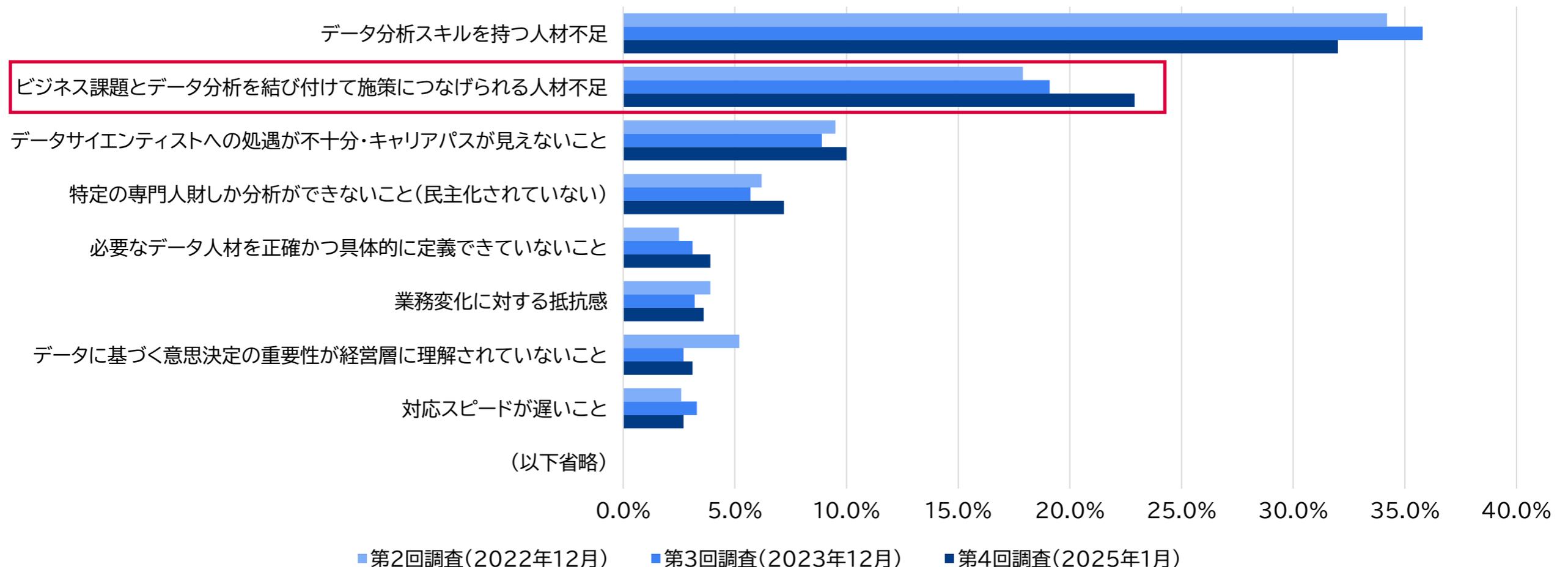
	デジタイゼーション企業(n=415)		ビジネス変革企業(n=346)	
変化前	業務改善	137	ビジョン策定・実行	99
	基幹システムの刷新	85	業務システムの導入・高度化	99
	業務システムの導入・高度化	83	業務改善	98
	人材のスキルアップ	83	リスク管理	93
	リスク管理	75	人材のスキルアップ	84
	顧客満足度向上	69	新規事業開発	83
	分からない	68	基幹システムの刷新	78
	財務成果	63	顧客満足度向上	74
	ビジョン策定・実行	61	財務成果	69
	新規事業開発	61	分からない	41
変化後	業務改善	130	業務改善	122
	人材のスキルアップ	90	業務システムの導入・高度化	108
	業務システムの導入・高度化	86	新規事業開発	94
	リスク管理	76	人材のスキルアップ	93
	ビジョン策定・実行	71	リスク管理	88
	顧客満足度向上	69	ビジョン策定・実行	80
	新規事業開発	68	顧客満足度向上	73
	基幹システムの刷新	63	基幹システムの刷新	68
	分からない	62	財務成果	59
	財務成果	56	分からない	36

最上位項目が変化

⑥DX推進に求められる人材

- データ駆動経営の推進課題について、「データ分析スキルを持つ人材不足」が減少した一方で、「ビジネス課題とデータ分析を結び付けて施策につなげられる人材不足」が増加。**業務を理解した上でデータを活用し、業務変革できる人材が必要とされる傾向。**

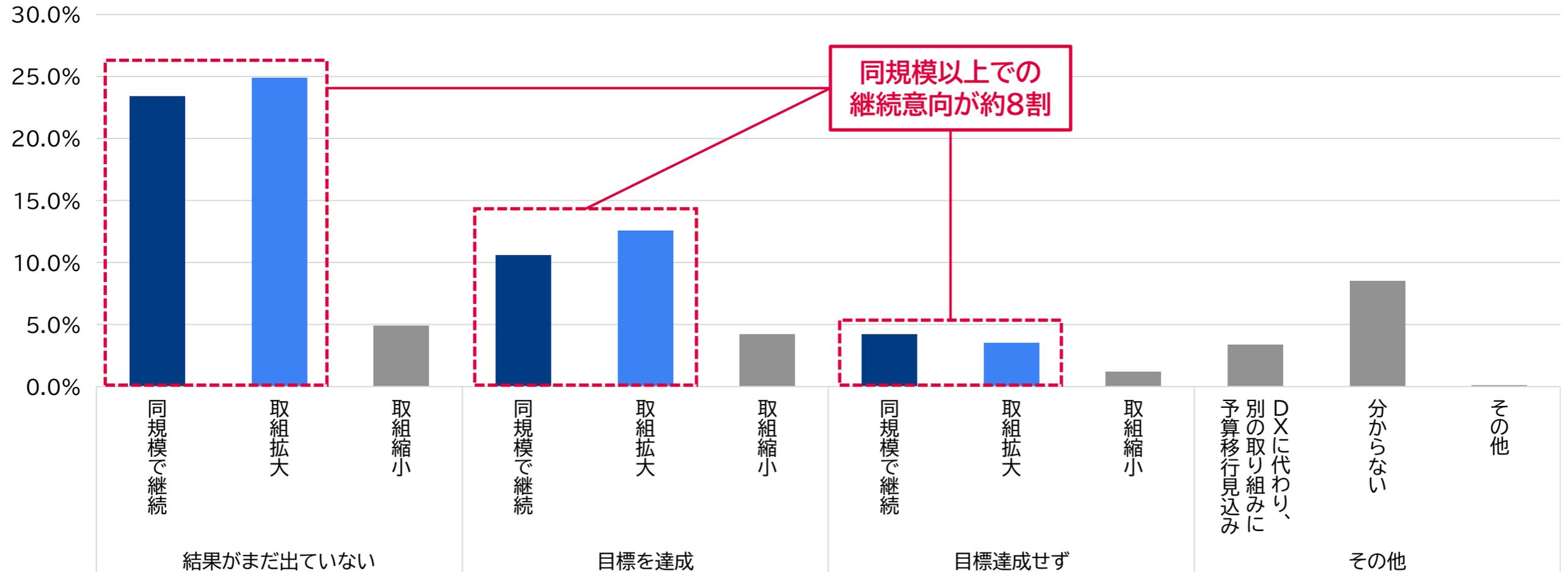
(設問)データ駆動経営を推進していくにあたり、最も課題となっていることは何ですか。(単数回答)



⑦今後のDXの取組意向

- 結果や目標達成状況に関わらず、**同規模以上での継続意向の企業が約8割**。一方、取組縮小意向の企業は約1割に留まる。

(設問)DXの取り組みについて、今後も継続する予定ですか。それとも取り組みが一巡し、追加の取り組みは落ち着く見込みですか。(複数回答)



本資料の前提

1.位置付け	本資料は、ご覧いただいた皆様の参考資料として使用されることを目的として作成されたものでありその他の目的に使用されることを予定しておりません。
2.情報の正確性・免責	本資料は、現時点で入手可能な情報および経済、市場、その他の状況に基づいて一定の仮定に基づき作成しているものです。 本資料の正確性、完全性、有用性、目的適合性及びそれを使用した結果等について当社は一切の責任を負いません。
3.商標使用	本資料に第三者の商標が含まれている場合がありますが、当該商標の使用は本資料の出所を表すものではなくご理解を深めるために名称として表示しているものです。
4.有効期限	本資料の有効期限は、発行日より2か月間といたします。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 三菱総合研究所 〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目10番3号

【内容に関するお問い合わせ】 デジタルイノベーション部門統括室 梅田、平島 メール：service@mri.co.jp

【報道機関からのお問い合わせ】 グループ広報部 メール：media@mri.co.jp

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI 三菱総合研究所